

あんしん相談センター ☎24・8071
消費者ホットライン ☎188

問い合わせ

賢い消費者になろう

消費せいかつ

VOL. 82

「初回お試し」にご注意！

※SNS：フェイスブックやツイッターなど、自己のプロフィールを登録・公開してインターネット上で友人などと交流できるウェブサービス

事例 SNSサイト内の広告を見て、1回500円のお試しサプリメントをクレジット払いで注文したところ、その後も定期的に商品が送られてくるようになった。発送を止めたがい販業者と連絡がとれない。

トラブル回避のポイント

- ◆商品を割安な価格で試せるからといって安易に注文せず、利用規約や購入条件をよく確認しましょう。
- ◆通信販売を行う事業者には、事業者の名称、住所、電話番号、返品条件などの表示が義務付けられています。注文する前に確認しましょう。
- ◆定期購入の際は、決まった期間内での解約が必要でないかなど、商品同梱の書面に必ず目を通しましょう。

松太郎 最終回 絵：みざき

※小松市立高校芸術コース美術専攻



昨年度(平成27年度)の支給対象者で65歳以上となる人へ

年金生活者等支援 臨時福祉給付金を支給します

問い合わせ

ふれあい福祉課 ☎24・8176

申請方法

「一億総活躍社会」の実現に向け、平成29年度から実施される年金生活者支援給付金の前倒し的な位置づけとして、給付金を支給します。

申請期間

次の①②の条件を満たす人

4月上旬に、対象と思われる人の世帯へ申請書などの関係書類を送付します。必要書類を郵送または受付窓口へ提出してください。

受付窓口

ふれあい福祉課、南支所、駅前行政サービスセンター

※郵送での申請にご協力ください。

①平成27年度臨時福祉給付金の支給対象者(平成27年度の市民税均等割が非課税で、課税されている人の税法上の扶養になっていない人)

②平成28年度中に65歳以上となる人(昭和27年4月1日以前に生まれた人)

！臨時福祉給付金を装った振り込め詐欺に注意！

給付金の支給のために、ATMの操作や手数料などの振り込みを求めることは絶対にありません。

市職員などを名乗る者から不審な電話が掛かったら、ふれあい福祉課または小松警察署(☎22・0110)までご連絡ください。

支給額
1人3万円 ※1回限り

支給方法
審査後、6月以降に指定された口座に振り込みます。

確認じゃ！申請じゃ！



歴史の舞台裏

連載 210

【小松の町家は一列三段型】

平成29年度の発刊に向けた小松市史建築編の調査が進み、市内の町家の全貌が見えてきました。

町家の建つ旧小松町と安宅町を中心に調査を実施していますが、旧市内では、昭和5年と7年に起きた大火のために家屋はほぼ全焼し、それ以降に建った家が殆どです。唯一大火を免れた家が梯川沿いの大川町に2軒残るのみです。江戸期末から明治に建てられた家で、その間取りを見ると、ミセ・オエ・ブツマ・オクノマの四室構成で、安宅町の町家にも共通します。ちなみに安宅町と同様に北前船主の家が建ち並ぶ加賀市の橋立の家は、農家が大きくなった田の字型構造です。

ところが旧市内は、大火後、その教訓から道路幅が三間から五・六間に広げられ、そのため家屋はセツトバックして部屋数が取れなくなり、オクノマ(ザシキ)がブツマと一体化し、ミセ・オエ・オクノマの一列三段型の間取りとなりました。

また、オエの空間は復古的で、農家では廃れてしまった吹き抜けをつくり、梁は製材を使用する時代に、チョンナを掛けた立派な太い梁を使い、時代に逆行する造りになっています。それがかつて町家の風情を残す結果となりました。古き建造物の保存には普段の生活との葛藤があり、計り知れない努力があります。



▲大火を免れた大川町の町家
教育庶務課市史編集担当
☎24・8274



方言談話資料に見る 小松方言の特徴 その1

大杉町(下大杉町・大杉中町)方言の
自然談話①

年度が改まりました。今月から本連載は19年目に入ります。今後とも変わらぬ愛読ください。さて、連載19年目のスタートにあたり、今回からは新シリーズとして、小松市内の何地点かでの自然談話や場面設定の会話の文字化資料を取り上げ、そこに見られる特徴を見ていくことにしたいと思います。

今回から取り上げる自然談話、場面設定の会話の文字化資料は、小松市立博物館の委託で1996年から2000年にかけて実施した小松市内全域での方言調査で得られたものです。その一部は、すでに『小松市立博物館紀要』の33号、34号、36号

みまっし、きくまっし 小松の方言

連載 217

加藤和夫 ●金沢大学人間社会学域教授・日本語学

で報告したことがあります。今号では、『小松市立博物館紀要』33号に掲載の拙稿「石川県小松市大杉谷川流域の方言」で取り上げた大杉町での方言談話の一部の紹介から始めます。

以下の方言談話は、1996年10月2日に大杉町の生活改善センターで収録した、4名の話者(A大正6年生まれ・男、B大正4年生まれ・男、C大正4年生まれ・男、D大正11年生まれ・女)による会話です。方言談話の文字化にあたっては、無意味な挿入句などは省略しつつ、表音的片仮名表記(文節分かち書き)で示し、適宜()内に共通語訳を付します。なお、小松の高年層方言では、語中のガ行音は原則鼻濁音となりますが、本稿では語頭の破裂音と区別せずにガギグゲゴと表記します。

A ダイタイ トシヨリヤサカイ(年寄りだから) ミミア トイモンジャサカイ(遠いものだから) ジブンノ ユーコトバツカデ(言うことばかりで) テレビト イッショヤ(同じだ)。ヨソノ ヒトガ ナニ シツモンシタカッテ(質問しても) ソリヤ。

B シランネ知らないね。

C イロンナ ハナシ マジエコジャ(ごちゃ混ぜに) ユーサケナ(言うからね)。

B ソレコソ ワガ(自分が) イワンナンコトダケワ(言わなければならないことだけは) イワンナント(言わなければ) オモテ(思っ) ユートンニヤロ(言っているんだろ)。

C キョーシツミタイナ ワケニワ イカンノヤ(いかないんだ)。アイテト トックミアッテ。今回は紙幅の関係でこままとします。小松方言の特徴についての解説は、来月のこの続きの方言談話の紹介の後に行いたいと思います。